

グロッシェー IAEA 事務局長、ダボス会議に参加 — 原子力発電、気候変動、ウクライナについて語る —

IAEA 広報・コミュニケーション室
マイケル・アムディ・マドセン



IAEA のマリアーノ・ラファエル・グロッシェー事務局長は、カーネギー国際平和財団のモイセス・ナウム特別研究員がモデレーターを務めるパネルディスカッション「懸念される状況」に参加した。パネルには、ウクライナ議会（最高会議）のアロナ・シュクルム議員、英国王立防衛安全保障研究所のカリン・フォン＝ヒッペル所長、そしてミュンヘン安全保障会議のヴォルフガング・イッシンガー議長が加わった。

原子力は低炭素エネルギーの未来へのより迅速な移行を可能にし、水素経済への移行を支援する機会を提供する、と IAEA のマリアーノ・グロッシェー事務局長は今週の世界経済フォーラム (WEF) 年次総会で参加者に語った。火曜日と水曜日にスイスのダボスで開催された会議に出席したグロッシェー事務局長は、世界のリーダーらと会い、世界の気候目標を達成するための原子力エネルギーの脱炭素化の可能性について議論した。また、事務局長はウクライナとイランに関する IAEA の活動についても議論した。

WEF は、官民協力の促進に焦点を当てた国際機関である。WEF の年次総会は、差し迫った地球規模の諸問題に関する洞察を共有するために、世界中からソートリーダーを集めて開催されている。

[WEF のウェブサイト上の意見記事](#)で、グロッシェー事務局長は、気候変動との闘いで原子力がますます支持を集めていること、炭素排出量をネットゼロにするには原子力発電規模の倍増が必要であること、さらに小型モジュール炉 (SMR) や使用済燃料処分場などの技術が原子力のアクセシビリティと安全性を向上させていることを強調した。

「現在運転中の原子力発電所の40%は、過去の大規模なエネルギー危機の結果として建設され、現在——かなりの額の初期費用をかけた後——世界で最も安い電力の一部を供給している」とグロッシー事務局長は説明し、今日、世界中で運転している440基以上の原子炉が低炭素電力の1/4を生産、50基以上の原子炉が現在建設中であると説明している。

事務局長は、SMRなどのイノベーションが市場に出るにつれ、国や産業界にさらに多くの選択肢を提示することになると述べた。事務局長はさらに、SMRはより迅速かつ手頃な価格で建設され、その設計により高いレベルの固有の安全性を持ち、太陽光や風力発電と柔軟に組み合わせることができ、世界中の多くの国によって現在開発されている、と指摘している。

IAEAは3月、持続可能な開発と気候目標への貢献を最大化するため、安全でセキュアなSMRやその他の先進原子力技術の効果的な世界展開を加速、促進するための新しいイニシアチブ「[原子力の調和と標準化イニシアチブ\(NHSI\)](#)」を開始した。

パネルディスカッション「原子力オプション？」

本日、ポーランドのアンナ・モスクヴァ気候・環境大臣、ニュークレオ社の創設者兼最高経営責任者(CEO)のステファノ・ブオノ氏が参加し、トムソン・ロイターの編集者ドミトリー・ジダニコフ氏がモデレーターを務めたWEFパネル「[原子力オプション？](#)」で、グロッシー事務局長は欧州のエネルギーミックスにおける原子力の重要性と世界的な原子力への関心の高まりを強調した。

「多くの場所で、原子力は、十分なエネルギー供給による経済成長と環境への配慮を正常に調和・両立させるための一連の取組の興味深い要素と考えられつつあることを目の当たりにしている」とグロッシー事務局長は述べた。

グロッシー事務局長は、イランとの核協議に関する現在の進行状況についての聴衆からの質問に答え、JCPOA（包括的共同行動計画）——時には「イラン核合意」と呼ばれる——の復活は、非核関連の問題のために「大きな困難」に直面していると述べた。また事務局長は、IAEAは他の多くの未解決の保障措置の問題を解決するためにイランと協議していると述べた。



IAEAのラファエル・マリアーノ・グロッシー事務局長は、トムソン・ロイターのドミトリー・ジダニコフ編集者がモデレーターを務め、ポーランドのアンナ・モスクヴァ気候・環境大臣、ニュークレオ社の創設者兼最高経営責任者(CEO)のステファノ・ブオノ氏が参加したパネル「原子力オプション？」に出席した。

パネルディスカッション「懸念される状況」

グロッシー事務局長は、カーネギー国際平和財団特別研究員のモイセス・ナウム氏がモデレーターを務める[パネルディスカッション](#)に参加した。ウクライナ議会議員のアロナ・シュクルム氏、英国王立防衛安全保障研究所のカリン・フォン＝ヒッペル所長、ミュンヘン安全保障会議のヴォルフガング・イッシンガー議長とともに、グロッシー事務局長はウクライナ紛争による核リスクと世界的な多国間主義への新たな関心について語った。

「傍観者、棄権者、分析者、そして問題解決者がいる。グロッシー事務局長は、IAEA を問題解決者として表現し、「実践的に問題を見る人たちが必要だ」と述べた。事務局長は、核兵器の使用は「考えられない」と述べ、IAEA の焦点は、原子力発電所への攻撃や放射性物質の放出に由来する原子力事故を回避することにあると説明した。事務局長は、IAEA はロシア軍に占領されているウクライナのザポリージャ原子力発電所を訪問し、燃料集合体として保管されている 30 トンのプルトニウムと 40 トンの濃縮ウランが他の用途に逸脱していないことを検証したい、と付け加えた。

ウクライナ紛争に希望の兆しがあると表現することに躊躇しつつも、グロッシー事務局長は、「国際機関を通じて、多国間で、共に取り組むことが必ず解決策になるという確信を新たにした——一国主義は何も解決せず、すべてを悪化させる」と述べた。

以上